

夢の中に、また、小さな子どものように泣いている清姫が出て来た……。

……気持ちを伝えなければ……と安珍は思う。

安珍は、清姫の肩に手をかけた……。その手が、毛むくじやらで……まるで、獣の手だ。

悲鳴をあげて、清姫が逃げ出した……。待ってくれ！と安珍は追いかけるが……。その声は、「ウォーウォー」という吠え声にしかない。

いつのまにか、安珍は、鬼の姿になっている……。

鬼は、泣き叫んで暴れる清姫をつかまえると……まるで子どもが玩具の人形で遊んでいるようにグルグルと振り回した……2〜3回、地べたに叩き付ける……。

ぐったりして、大人しくなった姫の身体に……。鬼は、今度は、いきり立った自分の巨大な陽根を突き立てた。

……ブチブチと音がして……。清姫が裂ける……。

鬼は、それを怒ったように……。一声、吠えると……。清姫の身体に噛みついた……。

そのまま、引きちぎって、むしゃむしゃと食べる……。

胴体からちぎれた首がころりと落ちた。

足下に、ころころと転がる。

悲しげな顔が安珍を見上げている……。

ワツと声をあげて、安珍は、飛び起きた……。

あわてて、自分の手を見つめる……。いつもどおりの、自分の手だ……。

まるで、本当に、自分が鬼になっていたようだった……。と安珍は思った。

全真にグツシヨリと汗をかいている。

その時……違和感を覚えた……。

股間がヌルツと濡れている……。

安珍は、あわてて……。自分のふんどしを確かめる……。

……。なんていうことだ……。安珍は、射精をしている……。